

知道 CHIDO-KAIHO 会報

75

編集 知道会広報委員会
〒310-0011水戸市三の丸3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内
発行人 西野虎之介
発行日 平成21年10月1日
通巻 第75号
メール chidou@world.odn.ne.jp

目次	特集	会員の集いー担当学年幹事紹介	2
	一高だより	国際物理オリンピック金メダル	4
	上海だより	上海のバンド仲間	5
	同窓会・支部だより	後輩支援にOB立ち上がる ほか	6

会員の集いを開催します

期日／11月14日(土) 会場／水戸京成ホテル

平成21年度(第59期)「知道会会員の集い」を次のとおり開催いたします。今回も幹事学年(昭53卒、昭63卒、平10卒)により準備が進められ、趣向を凝らした企画となりました。会員の皆様多数のご参加をお待ちしております。

なお、参加される方については、出席会費(5,000円)の事前の振込みをもって参加申込みとさせていただきます。同封の振込用紙「会員の集い参加申込用」によりお申込みください。

日時／平成21年11月14日(土)

午後3時～6時

場所／水戸京成ホテル

水戸市三の丸1-4-73

電話029-226-3111

会費／5,000円

幹事学年／

昭53卒、昭63卒、平10卒



徳宿 克夫 氏

<第1部>講演会 午後3時～

講師 徳宿克夫・高エネルギー加速器研究機構教授(昭53卒)

演題 「LHC(大型ハドロン衝突型加速器)で『未知の素粒子』発見を狙う」



昨年開催された創立130周年記念祝賀会

一宇宙の成り立ちについて、今、物理学者がどう考えているかを紹介します。

【講師プロフィール】

1959年茨城県桂村(現 城里町)生まれ。1978年水戸第一高等学校卒。1982年東京大学理学部卒。1988年理学博士(東京大学)。1988年東京大学原子核研究所助手、1996年助教授。1997年高エネルギー加速器研究機構助教授、2005年より大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構教授。東京大学学際理学教授兼任。

<第2部>懇親会 午後4時15分～

今回のアトラクションはパーティーらしくビッグバンドによるジャズ演奏。出演は県内で活躍する社会人ビッグバンド「George House Big Band」。軽快な雰囲気ステージをお楽しみください。

また、現在『桜田門外ノ変』の映

画化が県内で進められており、その支援事業の中心メンバーである本校OBから、映画や関連事業の紹介をしていただきます。

代議員会議を同日開催

第23交代議員会議を次のとおり開催いたします。この会議は本会の議決機関であり、各学年・地域・職域の代議員多数の出席により審議をお願いします。

日時／平成21年11月14日(土)

午後2時～

場所／水戸京成ホテル

議題／第58期事業報告

第58期決算報告

会計監査報告

第59期事業計画(案)

第59期予算(案)

その他

今回の会報の封筒には振込用紙2通(年会費払込票、会員の集い出席会費払込票)が同封されています。

昭和53年卒幹事

横山伸一

最初に、唐突ですがお知らせです。「集い」終了後、53卒の二次会を開催します。ふるってご参加下さい。

場所 水戸駅北口

日常酒飯屋 「赤ひげ」

会費 3,000円程度（予定）

*事前に参加者数を把握したく思いますので、近日中にメーリングリストでお知らせします。

当学年は、卒業後30年、現在は50歳前後となります。先日、集いの打ち合わせのため、知道会館を訪ねました。現在、当時の木造はもちろん鉄筋校舎もすべて建て替えられていて、まさに隔世の感がします。

当学年の在校時のトピックスを考えてみます。恐縮ですが個人的な印象です。

①歩く会 2年連続の雨天中止（1・2年時）

*当学年の完歩は3年次のみとなっています。

*写真は、一年時の歩く会、中央が今回講師をお願いした徳宿君、後方の白い帽子、しょぼくれているのが筆者

②野球部が準決勝進出（2年時）

*甲子園をねらえたと思います。

③浪人したら共通一次

*私にはどうしても良いことでした。（早々と私文専願）

④百周年記念事業（知道会館建設）のため旧体育館取り壊し（部室の不足を生徒会で問題にしました。天井からぶら下がる裸電球に風情がある建物でした。）

一学年同窓会のまとめり・特徴一

平成17年に学年同窓会を開催しました。写真はそのときの様子です。各クラス幹事に尽力いただき約130名の参加があり大いに盛り上がりました。知道会からもお祝をいただきましたこと、お礼申し上げます。

翌18年には東京知道会の幹事学年を努め、その際、東京知道会の畑岡君が中心となって作成した「メーリング

リスト」が、同期の情報伝達手段として個人的な連絡から催事等の案内まで広く活用されており、素晴らしい成果を挙げています。

学年の際だった特徴というものはありませんが、今回講師をお願いした徳宿君のように国際的な活躍をしている同窓生が多数いる一方で、働き盛りの年代にあることから、私をはじめとする当時の「成績不振者」でもそれなりの社会的居場所を得ているようです。

一知道会に望むこと一

同窓会とは不思議なもので、在校時の印象があまりない相手ともすぐにうち解けることができます。このような「出会い」が学年を越えて実現されるよう、知道会には引き続きお骨折りをいただければと思います。



歩く会

昭和63年卒幹事

山川純正、仲田留美

平野敬靖、河野秀幸

つくば科学博（EXPO'85）が開催された年に入学した私たちは、学苑祭で水戸駅前の街頭宣伝の騒音について調査発表して翌年NHKの番組に紹介されたクラスがあったり、「集い」では討論テーマに環境問題を取り上げたりするなど、楽しみながらも真面目に、行事に部活動に勉学に取り組んでいました。

生徒数は男子321名、女子106名、合計427名。学年主任は伊沢先生（英語）、担任には今春まで本校の校長をお務めになった五味田優先生（国語）や、本校に長く在職され諸先輩方もその名をご存知の根本久男先生（英語）などがいらっしゃいました。1年生の時に私のクラスの担任だった吉田洋幸先生（生物）がマラソンを始め、見る見る減量していくのを見た先生方の間

でちょっとしたマラソンブームが起きたとか起きないとか。吉田先生は今春竹園高校の校長を退職されましたが、今でも走っていらっしゃると伺い、驚いています。

卒業した昭和63年の春。東京ドームが完成し、瀬戸大橋（児島～坂出）・青函トンネルが開通。テレビからはドリンク剤のCMで「24時間、戦えますか〜？」と勢いの良い歌が流れ、書店では「ノルウェイの森」が飛ぶように売られていました。時代はバブル景気真っ只中でしたが、私たち生徒は至って堅実（地味？）に学生生活を送っていたと思います。

私たちが2学期制で3年間を過ごした最後の学年になりました。翌年度からは3学期制になることで行事が見直され、それまで10回開催されたスポーツフェスティバルが中止になる、また、私たちと入れ替わりに入ってくる新入生は学級増で10クラスになるらしいと聞いて、「ずいぶん変わっていくんだなあ」と感じたことを覚えています。

卒業後、クラスごとや職場ごとの同

窓会は開かれていたようですが、学年全体の同窓会は開かれないうまま、あっという間に20年が過ぎてしまいました。今回会員の集いの幹事学年にあたるのに先立ち、本年1月3日、三の丸ホテルにおいて同窓会を開催し、久しぶりの再会に時を忘れて話しました。会員の集いがまた新たな同窓会開催のきっかけになればと思っています。

63年卒は今回の会員の集いでは懇親会を担当します。企画にはビッグバンド演奏のほか、この冬から水戸周辺で撮影が行われ、来秋公開予定の映画「桜田門外ノ変」のご紹介などを予定しております。皆様楽しんでいただけるものになりたいと思っておりますので、多くの方のご参加をお待ちしております。



野球応援風景

平成10年卒幹事

飯島 亮

皆さんはじめまして。平成10年卒・学年幹事の飯島亮と申します。早いもので、卒業から10年余りの時が経ちました。誠に僭越ではありますが、この場をお借りして、私たちが母校で過ごした3年間を振り返ってみたいと思います。

私たちの高校生活の中で、諸先輩方と最も異なる点は、なんといっても学生の男女比です。平成10年卒業生は男子265人に対し女子121人。3年生になると文系と理系でクラスが分かれるので、文系クラスの男女比はほぼ五分となり、名実共に男女共学となります。男性諸先輩方にこの話をすると、多くの方から羨望のまなざしを向けられるのですが、女子が多いからといって、明るく楽しい学校生活を送れるかといえば、さにあらず。スポーツ万能、頭脳明晰、イケメン高校生として華やかな青春を送る男子がいる一方、「人は生まれながらにして不平等であ

る」という事実をまざまざと見せつけられ、打ちひしがれる男子も少なくありません。かくいう私も、「なぜ私には彼女ができないのか？ この世に女子は星の数ほどいるというのに。」と友人に嘆いたことがあります。高校生の分際で思い上がりもはなはだしく、情けない限りですが、それに答えて友いわく、「無数にあるが決して手が届かないもの、それが星だ。諦めろ。」

さて、そんな軟派な私にとって特に忘れたいイベントといえば、毎年6月に開催されていた「三の丸音楽祭」。学生が体育館で手作りのステージを組み、演奏する音楽祭です。楽曲のジャンルも様々で、ロックはもちろん、剣道部員によるラップなど、自由な空気のロックフェスティバルでした。残念ながら、平成13年を最後に休止状態とのことですが、ぜひ、復活してほしいと思います。

いっぽう、諸先輩方が過ごされた時代から私たちの時代に至るまで、母校に脈々と流れ、いつになっても変わらないものがあります。

それは、「学生への信頼」です。



三の丸音楽祭（平成9年）

水戸一高の先生方をはじめ、OBや保護者の皆様は、私たち学生（「生徒」ではなくあえて「学生」と呼びたい）をひとりの人間として尊重し、多少の無茶をしても温かく見守ってくださいました。巷でよく「自由」と言われる校風も、ひとえにこの信頼がベースにあつてのことだったと思います。卒業し社会人となり、子を持つ親となった今、人から信頼され尊重されることの喜びと、それに応えることの大切さを次の世代にも伝えていきたいと強く感じています。

最後に、若い会員の皆様、つどいへのご参加お待ちしております。みんな楽しんで語り合いましょ！

会員の集い 講演内容のご紹介

会員の集いの講師である徳宿克夫先生の講演内容をご紹介します。

LHC(大型ハドロン衝突型加速器)で「未知の素粒子」発見を狙う！

大学共同利用機関法人
高エネルギー加速器研究機構
教授 徳宿 克夫

20世紀の初頭に「量子力学」と「相対性理論」という新しい物理学が始まり、その後はまさにこの二つの理論をもとに、極微の世界での物質の究極の構造と宇宙誕生からの発展の歴史の理解が非常に進みました。現在の高度な電子技術・情報社会はこれらの理論によって生まれたと言ってもいいのです。量子力学無しにはテレビもコンピュータもなく、相対性理論は自動車のナビや携帯電話のGPSで自分の現在位置を確かめるのにも必要です。影響は物理学にとどまらず、人文社会科学にまで及びました。

この中で粒子を高エネルギーに加速する加速器での実験も、そこに大きく貢献してきました。20世紀後半には「標準理論」という理論が確立し、私たちは今再び、物理学として宇宙の成り立ちをかなり理解したと思っています。

しかし、すべてが解決したわけではありません。標準理論では、ヒッグス粒子と

いう新粒子があることが予言されていますが、この粒子がまだ見つかっていません。この粒子を見つけて初めて標準理論の考え方が正しいということをいうことができます。一方で、標準理論を超えるものが必要であることもわかってきました。例えば最近の観測によると我々の宇宙には未知の物質やエネルギー（ダークマター、ダークエネルギー）が満ちていることが強く示唆されています。また、ニュートリノに質量があつてかつ何種類かが混合していることも神岡での地下実験等からわかってきており、これも高いエネルギーでの未知の現象と関係があると考えられています。これらの謎のために、現在の素粒子物理学では非常にたくさんの理論が提唱されている状況です。

これらの謎をとくために、世界で最高エネルギーの陽子・陽子衝突型加速器LHCがジュネーブの近郊、スイスとフランスをまたがったCERN研究所で建設が進められてきました。1994年に建設を決めた後、総建設費約5000億円をかけた国際共同プロジェクトで、14年の年月をかけてようやく完成し、2008年9月10日にLHCの中を最初の陽子ビームが周回しました。しかし残念ながら、10日ほど加速器の調整を進めたところで大きな故障が起こり、その修復と、同じような事故が起きないように改善策を取るのに一年近い時間がかかってしまいました。今年の11月から再びビーム

を入射しての調整が始まり、今年中に最初の陽子・陽子衝突を観測できると期待しています。

LHCにおける実験では、順調に加速器が動き出せば、始めて数年でヒッグス粒子は必ず発見でき、標準理論の最後に残された課題に決着がつきます。また、ダークマターの候補と言われる超対称性粒子等の発見も期待されており、ここ数年の実験により「新しい標準理論」が確立できると期待されています。あるいはそういう期待を吹き飛ばすような全く新しいことが見えてくるかもしれません。「LHCでの実験が始まるとブラックホールができて地球を飲み込んでしまう」というような話題がありますが、この実験で世界が減ぶことはないと思うこともお伝えしたいと思います。

この講演では、宇宙の成り立ちについて、今、物理学者がどう考えているかを簡単に説明した上で、LHCへの加速器・実験の取り組みを紹介します。14年間かかった加速器と測定器の建設では、新しい技術の開発もあり、研究者だけでなく日本の企業の貢献も非常に大きなものでした。また、事故とその後の対策についてもお知らせし、このような困難な問題にCERN研究所がどうやって取り組んでいるかをお伝えします。時間が許せば、さらに将来の大型加速器実験への見通しもお話したいと思います。

国際物理オリンピック派遣報告 東川 翔 (37)

7月11日から19日までメキシコメrida市で開かれた国際物理オリンピックでは、金メダルという予想以上の結果を得ることができて本当に良かったと思います。一年間あたたかく指導して下さったオリンピック派遣委員会の先生方、おもに実験の指導をして下さった水戸一高物理科の先生方、面談のたびにはげましてくれた担任の根田先生、海外派遣の準備において主に資金面で援助していただいた知道会の皆様には本当に感謝しております。多くの方々のおかげがあったからこそその金メダルだと思っています。ありがとうございました。



今年は、79の国から400人弱の参加があり、世界中の物理の好きな仲間と交流することができました。他国の文化や気候について紹介してもらったり、あるいは持参した折り紙や扇子などを披露してたくさんの友達を作ることができました。特に韓国の金君とはどちらも英語がうまくないこともあって一番仲良くなれました。彼はいわゆるオタクで日本のアニメを僕以上によく知っていました。そのおかげもあって日本語がうまく、大会の後半は日本語で話していました。英語がうまく話せなかったため、ヨーロッパの人とはうまく話せませんでした。相手のジョークにすぐに返せなくて気まずくなることが何度もありました。ヨーロッパでは、おもちゃの説明書やゲームの音声は英語なので、母語が英語でなくても英語を話せるようになるのだと言っていました。大会に行く前に英語、特に会話の勉強をするべきでした。

国際物理オリンピックの試験は、大会二日目の理論試験五時間と大会四日目の実験試験五時間で構成されます。理論試験当日の朝はこの日に照準を当てて気持ちを統一していたので程よい緊張で臨めました。試験中は見たことのない問題がほとんどでしたが、気合と根性で答案を書きあげまし

た。金メダルを取れたのはわからない問題に粘ったからだろうと思います。実験試験では焦ってしまい実験器具の説明書を取り出すのを忘れてしまい、初めの二時間をほとんど意味なく過ごしてしまいました。残りの時間で何とか実験をして答案を書き上げました。終わった直後は気持ちがめいって昼御飯がよく喉を通りませんでした。

試験が終わった後は、採点をしている先生方そっちのけでマヤ文明の遺跡に観光に行きました。マヤの遺跡はひじょうにきれいな建物で、調和の取れた建造物が印象的でした。また、ビーチに行つて一日中遊んだり、現地の方やノーベル賞を取った学者の方の講義を聞きました。講義はもちろん英語で話されるので何を言っているのかほとんど分からず、ここでもジョークに数秒遅れて反応していました。

一年前の日本代表候補者生活が始まった頃は、僕は物理がなんだかよくわからない只の高校生でした。それが金メダルを取れたのは、自分の努力というよりむしろ周りの方が根気良く支えてくれたからです。ぜひ、後輩の皆さんには、怖気づかずに、科学オリンピックに積極的に挑戦してほしいと思います。



日本代表メンバー、左から2番目が東川翔君

学苑祭を終えて 第61回学苑祭実行委員長 高林豊人 (34)

6月27日(土)・28日(日)の2日間、第61回学苑祭が開催されました。昨年に引き続き2回目の6月開催であった今回の学苑祭では、昨年明らかになった運営上の課題の解決に取り組むとともに、学苑祭の新たな方向性といった観点も意識しました。

その一つとして、「環境への取り組み」の実施が挙げられます。これは、学苑祭におけるゴミの排出量の削減と、環境問題への意識向上を目標としたものであり、準備段階から学苑祭期間全体を通して、様々な取り組みを行いました。メインテーマ「加

速する新時代」に加えて、新たに設定されたサブテーマには「Only One Earth, Only One Festival!」が選ばれ、展示で使用した資材のリサイクルも例年以上に推進しました。同時に、この取り組みは「諸問題を考える場」としての学苑祭の在り方を模索したものであります。

学苑祭当日に関しては、一般公開中の天候にも恵まれ、2日間で6,430人もの方にご来校頂きました。クラス・有志団体合わせて40以上の団体が多種多様な展示発表を行い、例年以上の賑わいがあったように感じました。

今年度で9月実施の学苑祭を経験した3年生は卒業し、開催時期の移行という大きな“変化”も一定の区切りを迎えるといえます。しかし、これで学苑祭の変化が終わったということではありません。学苑祭はこれまでの60年の歴史の中で常に変化を続けてきたのであり、その積み重ねによって現在の伝統が築かれてきました。これからも学苑祭を発展させていくためには、生徒一人一人が学苑祭の在り方について主体的に考え、よりよい方向へと変化させていくことが不可欠なのではないかと思っています。最後になりますが、今後とも学苑祭へのご支援をよろしくお願い致します。



陸上部 大躍進

陸上競技部は6月に栃木県で行われた関東高校体育大会に11名が10種目に出場し、男子5000m競歩で大内穂高(39)が優勝、女子800mで谷田部遼(33)が5位入賞し、8月に奈良県で行われた全国高校総体への出場権を得た。全国高校総体では、谷田部が予選を通過し、準決勝に進出した。また、谷田部は、10月に新潟県で行われる国民体育大会にも出場することが決定している。陸上部は、昨年の実績を大きく上回り、大躍進した。1、2年生も着実に力をつけてきており、今後の活躍が期待できる。

水泳部 全国大会出場

7月に栃木県で行われた関東高校水泳競技大会に4名が7種目に出場した。男子100m、200mの背泳ぎにおいて、標準記録を突破した清水一利(35)が8月に大阪府で行われた全国高校総体に出場した。惜しくも予選突破は叶わなかったが、清水は、国民体育大会に本県選手として、少年男子200m背泳ぎ、メドレーリレー(背泳ぎ)に出場し、メドレーリレーでは全国8位に入賞した。

山岳部 健闘

山岳部は、団体で、昨年に引き続き、関東高校登山大会に出場した。また、団体競技ばかりでなく、個人では、沼田ほあし(13)が、8月に富山県で行われたJOCジュニアオリンピッククライミングに出場し、高校生の中では、全国3位に入賞した。さらに、沼田は、10月に行われる国民体育大会のスポーツクライミングへの出場も決定しており、日頃のたゆまぬ努力が実を結んだと言える。今後の活躍が楽しみである。

充実 放送部

今年のNHK放送コンテスト県大会では、テレビドラマ部門・ラジオドラマ部門で第1位、テレビドキュメント部門で第2位、朗読部門では菊池あかり(34)が第2位、鈴木旺(21)が第4位に入賞し、各部門とも全国大会(東京)に出場した。全国大会では、惜しくも準決勝に残ることは出来なかったものの、それぞれの部門で、常に県のトップレベルに位置することができるのは、日々の充実した活動によるものと言える。

上海だより

上海のバンド仲間

川又敏郎(広報委員会副委員長)

私は高校時代にプラスバンドに入っていました。当時は練習嫌いで仲間迷惑をしましたが、以後もずっとトロンボーンを吹いています。この4月から上海勤務になったとき、仕事上の不安とともに「上海に吹く場所があるのか?」ということが頭をよぎりました。日本のような吹奏楽団やジャズバンドがあるかどうかかわからないまま、楽器を中国に持ち込みました。

上海プラスバンド

この団体は日本人が作った日本人の吹奏楽団です。年2回の演奏会は、毎回満席になるような人気です。演奏会のお客様は7~8割が中国人です。終演後のアンケートには漢字がびっしり並びます。私は6月の演奏会に出演させていただきました。練習の後は居酒屋などで運営会議や食事をします。けっこう楽しいひと時となります。蘇州や杭州から片道2時間かけて練習に来る団員がいますし、中国人の団員もいます。

地元中国人のバンド

職場近くのイベント開成式でプラスの音がしたので、様子を見に行きました。20

人くらいで演奏しており、真っ赤なユニホームに黄色のモール。日本なら警察や消防の音楽隊のような感じがします。ある日の夕方、練習に参加したところ歓迎を受け、一緒にやろうと言ってもらいました。しばらくしてマネージャーから日時の指定があり、自動車部品展示会の開成式イベントで本当にデビューしてしまいました。



中央のトロンボーン奏者が筆者

韓国レストランでジャズ

職場の同じフロアに韓国系企業の事務所があり、前任所長の中国人の友達がいまして。彼の弟はジャズが好きでサックス吹きのこと。そこで、楽器を持って彼が演奏しているレストランに遊びに行きました。サックスとキーボードの2人でジャズのスタンダード曲を毎日演奏しています。弟さんは耳が良く、聴いてすぐ吹けますが五線譜は苦手。2人は音楽用語以外中国語オンリーなので、筆談になります。

新刊紹介

知道会事務局に寄せられた本校出身者・関係者の著作を紹介します。



もうひとつの旅路
日本文学館
500円(税別)
藤和季
(福田(旧姓小又)
由紀子)著
(昭30卒)

姑の介護・死、夫との死別、嫁との確執、そして最後にたどり着く一人の暮らし。現代の女性が歩むスタンダード(?)な人生を、友人の姿を通して冷静に見つめる著者の目は愛情にあふれ、城山三郎の「本当に生きた日」の主人公を彷彿とさせる。著者にとって、この著作はシノプシスであろう。さらに登場人物のディテールを描き出し、現代版「女の一生」を読みたいと思った。



観察ガイドブック
茨城の海藻
暁印書館
1,200円(税別)
中庭正人 著
(旧職員)

昭和54年から4年間本校に生物教諭として奉職した著者は、茨城の海藻研究の第一人者。全長190キロに及ぶ茨城の海岸線を47年の年月をかけて丹念に歩き、調査した集大成である。学術的にはもちろん、観察地も丁寧に紹介されており、海へ出かける時のハンドブックとして重宝な一冊である。なお、随所に配された古谷忠氏の昭和のイラストが、固くなり勝ちな生物関係図書にほのぼのとした印象をかもしている。



常陸太田を歩こう
歴史と自然50コース
金砂太田楽研究会
1,200円(税込)
常陸太田歴史自然探訪の会 編著

編著者である井坂攻、小倉勝男両氏は、昭35卒。根本茂氏は昭45卒。常陸太田市街地を中心に、旧金砂郷、旧水府、旧里美の広範な地域を具に歩き見て、丁寧にまとめたガイドブックである。ウォーキング、ハイキングのシーズンとなるこれから、渋滞を心配しながらの遠方への旅行は避けて、手近なところで、のんびりと秋の風情を楽しんではいかが。



死ぬときに後悔すること25
致知出版社
1,500円(税別)
大津秀一 著
(平6卒)

題名及び副題の「人は死ぬ際にこんなことを後悔しています。」からして、著者の年齢は50~60歳年代は下らないと思っていたが、33歳という歳に正直びっくりした。

死生観というものは、単に生きた年月では達観できないものであろうということに改めて感じるとともに、若年ながら終末期医療に携わる著者の豊富な体験に基づく「死」を目前にした人々の様は一読の価値あるものと思われる。

茨城県産業会館知道会

茨城県の産業振興を目的とする団体職員で構成される県産業会館知道会では、毎年恒例の総会及び懇親会を今年の8月18日に行いました。

今回は、小野邦夫会長（茨城県信用保証協会）、飛田昌昭副会長（茨城県銀行協会）、そして根本祐一事務局長（茨城県信用保証協会）の役員が、職場の退職あるいは任期満了に伴って退任となり、役員改選を実施いたしました。

新たな役員には、小川俊明会長（商工会議所連合会・水戸商工会議所）、鈴木昇副会長（茨城県石油業協同組合）、篠崎達志事務局長（茨城県信用保証協会）が満場一致で選任されました。

平成18年から毎年総会をおこなっている県産業会館知道会ですが、新体制のもと県の産業振興にかかる知道会員の繋がりを一層深めるとともに、知道会本部との連携強化にも努め、より一層充実した活動を行っていく方針であります。

瓜連の史跡を訪ねる ウォーク会

大型連休の最終日の5月6日、みつば知道会（会長：飯村喜明 昭29卒）と瓜連知道会（会長：寺門康友 昭25卒）合同の「瓜連の史跡を訪ねるウォーク会」が行われた。

両知道会はそれぞれ水戸市、那珂市に位置するが、同級生同士の親交があり、今回初めて合同ウォーク会を行うことにトントン拍子で話が進んだ。コースは平成17年11月にも行われた、おなじみの「瓜連ロマンロード」で、今回は、地元那珂市の歴史民俗資料館の仲田昭一館長（昭37卒）が史跡の説明をしてくれることになった。

劈頭に、静駅近くの「白蓮塚の碑」の案内。14世紀の頃は、このあたりは一面沼地であったとか。「上人の夢」より蓮の一径のいわれから、この地に「常福寺」が創建される。常福寺の境

内には「瓜連城址」もある。

南北朝時代には、楠木正家が東国経営の拠点としたところ。貴重な史跡である常陸二の宮「静神社」と「斉藤監物の墓」。

今年2009年（平成21年）は水戸藩開藩400年にあたり、記念として「桜田門外の変」の映画化も伝えられ、私たちを1860年の幕末動乱の時代へ誘ってくれる。

古徳沼のすぐそばに「古徳城」があったという。やはり14世に築かれたとすることで、古徳氏一族はその後水戸城に本拠を置き江戸氏の家臣となったが、内乱に巻き込まれて16世紀（1514年）に滅びた。

幸いにも天候に恵まれ、躑躅の美しい瓜連の史跡を巡り、多数の奥様方にも満足していただけたのではないでしょう。

（昭34卒 堀江 効）

岩間知道会総会報告

毎年総会を行い親睦を深めているが、今年は2年毎の役員改選の年に当たり、会長（佐藤善介 昭16卒）が高齢のために辞意を表明したので、副会長（打越常利 昭23卒）が会長となり、役員が一人補充された。

岩間知道会はこの数年30名前後で推移しているが、総会への出席は20名前後となっている。いつも事前の役員会で何か魅力ある行事をと話題にはなるのだが、なかなか実現は難しく、いつも懇親会のみで出席会員も顔ぶれが固定化の傾向にある。それでも会員同士は1年ぶりの集まりになるので、いろいろと話題は尽きることなく楽しい会合になっている。

6月20日に行われた総会には本部の事務局長に出席してもらい、知道会の現況についての情報を聞いた。また最後までおつきあいをいただき懇談の座が一層盛り上がり、和やかな会合となることができた。

これからの課題は会員の高齢化が進むことと、新人の会員が極めて少なくなっており、有資格者をどう勧誘して

いったらよいか、いかにして魅力ある会にするかなどである。

（常井洋一記）

後輩支援にOB立ち上がる

母校の水戸一高在校中に様々な部活動を経験して青春の記憶に残っている卒業生は、現在でも後輩の合宿などに顔を出したり、有志でOB合宿などを企画・参加したりして昔話を楽しんでおります。

今年は、在校生の文化活動面での活躍は目覚しく、メキシコで開催された国際物理オリンピック、筑波での国際生物学オリンピックへの参加等、校舎以外の場所に出かけての在校生の活躍が話題になる一方、そのための資金調達に苦慮し、学校側から知道会への支援要請もあったと聞いております。

我が生物同好会OB会も定期的に「花園合宿」を実施し、懇親を深めているが、今年は、このような学外活動を支援できないか、後輩たちの活躍を支えることが先輩としてやるべきことだ、ということが議論になり、その結果、①学年を超えた卒業生同士のコミュニケーションを取るメールシステム（将来は顧問の先生も参加していただく）の構築、②在校生の対外活動のための金銭的な支援（なるべく多くの現役生徒を対外的な活動に参加してもらうため）をやっていくことになりました。

既に生物同好会OBを対象にメーリングリストをスタートさせて、金銭的な支援のしくみについても実施要領を作成し、近々支援制度を運用する予定です。

（生物同好会OB会 高野宏彦 昭42卒）



7月18日～19日に実施された生物同好会OB会花園合宿（七つ滝入口で）

平成21年度 土浦水中一高会例会

今年度は、去る7月4日(土)午後5時から霞ヶ浦を望む“HOTEL KANKO”で盛大に開催しました。土浦水中一高会は、筑波山を北に仰ぐ土浦市周辺の県南地区に会員約200名の伝統ある同窓会として毎年会員の親睦と交流を重ねています。

今回は、知道会本部から副幹事長の栗原英則様、さらに参議院議員の藤田幸久様をお迎えし、総会・講演会・懇親会を開催いたしました。

総会において役員改選があり、長年にわたり会の発展に貢献された友部発夫(昭34卒)会長が勇退され、新会長には、寺門征二氏(昭38卒)が選任されました。栗原副幹事長からご祝辞をいただき、知道会の活動状況や130周年記念事業について報告がありました。

講演会は、佐藤洋一郎氏(昭38卒)により「ガスでダイヤモンドを合成する」という演題のもと、ダイヤモンドは宝石として価値が高いばかりでなく、最も高い硬度熱伝導度で代表されるように、他の材料には追従できない性質を持った価値の高い将来性を持った材料であり、ダイヤモンドが合成され、いろいろな分野で利用されるなど、夢の広がる話を伺いました。

親睦会では、来賓・初出席者のスピーチもあり、思い出話、そして今年は歩く会の県南石岡出発のコースで開催され恒例の優勝盾を贈る話等、大いに盛り上がり親睦を深めました。

最後に校歌を斉唱し、次回の再会を期し、ますます参加者を拡大することを祈念し散会いたしました。

(田嶋光夫(昭42卒)記)

入学50年37年学年 同窓会開催

37会は、9月26日(土)に水戸市・ミマツホテルで、入学50年を迎えたのを期に、同窓会を開催し、74名が参加しました。恩師3名(石塚先生、箕

輪先生、奥村先生)を招待しましたが、奥村先生のみのお席となりました。横須賀直志君(3組)の司会により開会し、西野知道会会長・奥村先生に紅一点参加の柳川(根本)洋子さん(6組)から記念品を贈り、友達方より来るで、北海道から参加した小林禎三君(5組)の乾杯で始まり、思い出話に時間の経つのも忘れ、中締め後も楽しく過ごし、3年後の再開を期し散会となりました。

(飯島正弘)

西日本水中一高会

西日本水中一高会では年に2回、会報きずなを発行しております。記念すべき第1号は平成18年10月に発行しました。その夏、本校出身の恩田陸氏の「夜のピクニック」が上映されたこともあり、幅広い世代層から歩く会にまつわる話題が多く投稿されました。

その後、今春発行された6号にわたり、学徒動員を含む学生時代の思い出話、関西と関東の文化比較、趣味の話、お仕事の紹介など、幅広い世代から様々な話題を提供いただいております。その一つ北村(木村)素子氏(昭57卒)の投稿「水戸っぽは、いちやける〜!」を抜粋して紹介します。

『大阪に来て10年少しになります。が、…私の水戸っぽ精神はどうなったか?相変わらず、電車に乗る時ヨコ入りするおばちゃんには黙っておれません。「ちょっと。みんな並んでます!」(私の家族は、サッと身を引く他人のふりをする。)しかし、敵もさる者「あー、ゴメンな!おねえちゃん♪」(一緒に乗り込む。)質実剛健な水戸っぽも、ナニワのおばちゃんにはかないまへん。』

本会では関西に移転された方のお入会をお待ちしております。総会や昼のピクニック等の行事についてご案内しますので、eメールにて、mitoichi@osakatenma-Lo.comまでご連絡ください。

(担当:栗田真人(昭57卒))

秋晴れの下 元気に歩歩 ～桜川市でOB歩く会開催～

恒例の「OBミニ歩く会」が、快晴となった9月13日(日)、桜川市真壁地区で開催されました。

6回目を迎える今回は、地元の桜川市知道会の協力も得て、参加者の総勢は70余名。集合場所となった真壁福祉センターには、リュックを背負った参加者たちが早朝から続々と到着しました。



出発式では木村利・親睦委員長(昭36卒)、島田俊彦・桜川市知道会会長(昭27卒)のあいさつに続き、川上清・茨城県ウオーキング協会副会長(昭29卒)が準備体操や歩き方などを指導。体を十分に伸ばした後、全員一斉にスタートしました。

今回歩いたのは、平安時代末期の創建と伝わる五所駒ヶ瀧神社、戦国時代の堀や土塁が残る真壁城址、歴史的建造物が息づく真壁の町並みを散策する約6kmのコース。それぞれの場所では、宮司さんや桜川市教育委員会の職員、町並み案内ボランティアの皆さんからの説明に熱心に耳を傾けながら歩き続けました。



コース中に見所が多く、予定時間をややオーバーしながらも、筑波山麓のさわやかな秋風を受けながらの約3時間、全員元気にゴールしました。参加者の中で最年長の小崎忠氏(昭23卒)は「楽しい企画で毎回参加しています。次回もぜひ参加したい」と話していました。

委員会

総務委員会

総務委員会では、第10回（平成21年）「会員の集い」開催に向けての準備を行いました。

4月、6月、7月とすでに3回の「会員の集い」実行委員会を開催し、会員の皆さんが楽しいひとときを過ごせるよう企画立案をしました。（内容は、今回の知道会報にて告知）担当学年で分担を決めて企画、運営を行う実行委員会方式も定着し、講演会の講師選定は昭53年卒で、「集い」の運営・進行は昭63年卒でそして受付は平10年卒で企画、運営を行います。

たくさんの会員の皆様の参加をお待ち致しております。

さて、130周年記念事業も終了し、知道会は新たな10年を迎えました。知道会報74号で記念事業委員会沼尻滋会長より4つの課題を提起されております。その中で特に「会員総意に基づく決定を重視し、オープンかつ組織的な対応を原理原則とすべきこと」は知道会の将来、次の10年にとって重要な課題であります。

総務委員会では、「会員総意」「オープンかつ組織的な対応」をキーワードとして会員の皆様のご意見を反映させながら、このキーワードが実現できる提案をしていきたいと考えております。

ぜひ、ご意見を総務委員会までお寄せ下さい。

総務委員長 中村彦蔵（昭37卒）

名簿委員会

当委員会では、会員の消息・住所など責任をもって常時更新しています。現在計画中の名簿は、「平成24年版」となりますが、全国の卒業生名簿としては「消息判明率」でベスト数校にランクされています。

なお、最近、「退会希望」という方が数人おりますが、個人情報保護法上ではご氏名を名簿から“抹消”せざるを得ないこととなりますので御了承下さい。是非、会員として継続されることをお勧めします。

名簿委員長 打越芳男（昭34卒）

財務委員会

当財務委員会は年会費（毎年10月1日～9月30日）の納入促進を主な仕事として、会報に同封した払込通知書による納入依頼の他、学年同窓会や地域、職域同窓会での会費徴収依頼をして、各担当幹事のご協力により活動資金の確保を図っています。

今回の会報は期首ですので、該当の方全員に本年度年会費払込通知書が同封されております。先の代議員会議に於いて承認を戴いた75歳以上の希望会員を対象にした終身会費（10,000円）制導入も現在210余名の方が希望され、さらに増えております。

厳しい状況ではございますが、本会維持のため会員の皆様のご理解をお願い申し上げます。

財務委員長 小野邦夫（昭39卒）

親睦委員会

●親睦ゴルフ大会

新緑に囲まれて6月の晴れ間に、新里美GCで和気藹々知道会恒例のゴルフ大会を盛大に開催しました。参加者約45名と平年よりは少ない中に女性や若い会員が多く、今後の展開が期待される親睦ゴルフ大会でした。

●親睦旅行

今回は、高山まつりと合掌つくりの五箇山・白川郷方面を計画しましたが、期限までに募集人員が集まらなかったことから残念ながら中止となりました。早くからお申し込み頂いた方々には申し訳なく思います。

●第6回 OBミニ歩く会

今年は、石と蔵と歴史の街「真壁」コースです。桜川市知道会20名のご支援の下で、天候に恵まれ筑波山麓に広がる古い町並みを散策しました。地元会員の医師2名が救護班として常駐して万全の体制で参加者73名という賑やかな楽しい一日でした。これからも是非皆さんのご参加をお待ちしています。

親睦委員長 木村 利（昭36卒）

物故者 (H.21. 2～)

旧職員	森山 繁子	昭13	(西條) 西城 大誓	昭20	羽方 和男	昭28	(吉田) 田中破魔夫
大14	小室長太郎	昭13	谷萩 充	昭20	武藤 茂	昭28	斎藤 昌彦
大14	中川 鐵男	昭14	浅川 義光	昭20	荒木田泰通	昭29	玉川 暢良
大15	武藤 実	昭14	中崎豊一郎	昭20	櫻村 哲	昭30	国友 貞夫
昭 4	西村 初雄	昭14	(根本) 平戸 龍	昭20	小菅昭一郎	昭30	安達 裕一
昭 5	磯 静波	昭15	石川 勉	昭20	山口 哲郎	昭30	高橋 四郎
昭 5	小室 次男	昭15	日野 喜良	昭20	上田 昭	昭31	石井 精
昭 7	川又 厳水	昭15	広木 治彦	昭20	神永道之介	昭31	島田 彰夫
昭 8	嶋崎 干城	昭17	植村 孝秀	昭20	須田 清	昭32	本多 信男
昭 8	(八木岡) 小船 稔	昭17	川並 健	昭20	江 佳治	昭33	(小林) 斧田登久子
昭 9	(磯上) 飯塚 久寿	昭17	品川 昌美	昭20	丸山 一祐	昭33	浅川 克夫
昭 9	大内 公一	昭17	(中村) 大田 正	昭20	渡辺 昌吾	昭34	大津 恵紀
昭 9	小口 二郎	昭17	山中 常德	昭23	井上 正一	昭34	菅谷 浩
昭 9	齊藤 祐	昭18	中村 元春	昭23	梅澤 信夫	昭35	宮田 洵
昭 9	中島 基	昭18	三村 道行	昭23	金田 信夫	昭35	辛島 功士
昭10	青木 竹男	昭19	鹿志村 盛	昭23	鈴木 孝彦	昭36	川井 康雄
昭10	森田 孝良	昭19	栗原 宏	昭23	増山章一郎	昭40	沼田 成夫
昭11	大金 新一	昭19	高田 義一	昭24	出沢幸治郎	昭40	(石井) 石塚 邦彦
昭12	大和田一郎	昭19	福地 誠	昭24	佐藤 次男	昭45	荘司 雅人
昭12	河井 克夫	昭19	釈 宏	昭25	大内 孝也	昭46	宮田 崇司
昭12	北村 和男	昭20	(飯塚) 永井 弘	昭25	渡辺 達郎	昭47	郡司 圭二
昭12	佐久間三好	昭20	井上 英鉄	昭25	安藤 勝美	昭51	(佐藤) デイレイ知香子
昭12	志賀 立佑	昭20	大久保 一	昭25	海老根 進	平11	狩野 哲朗
昭13	坪内 正勝	昭20	海子 邦男	昭26	田山 晃		
昭13	中河 洋	昭20	桜井 博章	昭26	大部 康寿		
昭13	永山 一男	昭20	田崎 久雄	昭28	小林 常樹		

【事務局から】

- 事務局へのご連絡は出来る限りFAXをご利用下さい。FAX、MAILは常時（24時間）通信可能です。
- 代議員の交代、会員情報など常時受け付けています。会員個人の住所変更でも結構です。
- 知道会の各委員会では、若い力を求めています。奮ってご一報下さい。自薦・他薦を問いません。

【編集後記】

今号も盛りだくさんの原稿で、文字が小さく読みにくい紙面になってしまいました。これからも読みやすさに心がけ、タイムリーな内容を盛り込んでいきたいと思っておりますのでご支援のほどよろしくお願いたします。（W）